

知的障害特別支援学校高等部における 軽度知的障害のある生徒への授業実践の検討

○八木絵梨奈
(兵庫県立芦屋特別支援学校)

井澤信三
(兵庫教育大学大学院)

KEY WORDS: 特別支援学校高等部 軽度知的障害 授業実践

I 目的

本研究では、知的障害特別支援学校高等部における軽度知的障害のある生徒に必要な指導内容を含めた授業実践を行い、その効果を検討することを目的とする。

II 方法

1. 対象者：B1、B2の療育手帳を所持する県立Z特別支援学校高等部3年生13名であった(データ採用は保護者の承諾を得られた12名)。

2. 指導期間：201x年6月～9月に実施した。

3. 手続き：(1)事前質問紙調査：対象生徒の担任(授業実施者を除く)に自立活動チェックリスト(Table 1参照)を実施した。チェックリストは「就労に関する自分発見チェックリスト」(徳島県立みなと高等学園, 2015)を参考に作成した。(2)軽度の生徒に必要な(重要)だと思える上位項目を含む授業実践：事前に、自立活動チェックリストの項目を含むアンケートを知的障害特別支援学校高等部に所属する教員に実施した。アンケートの結果から、平均点の高い上位項目を標的行動(Table 1の1、2、3、4、5、6、30)とし、その項目内容を含む授業を全5回行った。その中で、リアルな状況を設定して課題を遂行するシミュレーション課題として、指定された場所に行き、指定された教員から指定された物を借りてくるという内容のミッションを実施した。また、ミッションの様子をiPadで撮影し、ビデオを用いたセルフモニタリングを行った。(3)評価①自立活動チェックリスト(post)：対象生徒についての自立活動チェックリスト(事前と同様)を、対象生徒の担任(授業実施者を除く)に実施し、preと比較した。②全体の感想：5回目の授業の終わりに、生徒に授業全体の感想を記入させた。③教員の事後アンケート：担当教員2名に授業についてのアンケートを実施した。

III 結果と考察

Table 1より、上昇した項目は37項目中9項目(網掛けの項目)のみであった。授業回数が少なかったため、生徒の行動に変化が見られにくかったことが理由として挙げられる。また、preとpostのチェックの間が空いたこと、授業の間に現場実習があり、教員の生徒をチェックする視点が厳しくなったことなども理由として考えられる。今後、チェックリストでの評価を行う際には、評価の視点を具体的に示すことが求められる。生徒の感想には、「まさか、わからない事があったら、ききにもどるのが、ありとは、わからなかったです」等、生徒自身の言葉で様々なことを記入してくれていたことから、今回の授業で新たな気づきや学びがあったのではないかと考えられる。担当教員の事後アンケートから、今回の授業プログラムで学んだことが日常生活に般化していることが確認できた。リアルな状況を設定して課題を遂行するシミュレーション課題と、ビデオを用いたセルフモニタリングの技法を用いることにより、般化が促されたと考えられる。

(YAGI Erina, ISAWA Shinzo)

Table 1 自立活動チェックリスト項目ごとの平均

	項目	PRE (SD)	POST (SD)
1	場や状況に合わせた適切な挨拶ができる(「おはようございます」等)	4.3 (0.5)	4.2 (0.8)
2	手伝ってもらったり教えてもらったりしたとき、「ありがとうございました」と言える	4.4 (0.5)	4.1 (0.5)
3	自分のミスを認め、「すみませんでした」等と謝ることができる	3.5 (1.2)	3.3 (1.1)
4	指示があったときに返事ができる	4.3 (1.0)	4.2 (0.7)
5	分からないときに質問ができる(「わかりません、教えて下さい」「これはどうするのですか」等言える)	3.8 (1.1)	3.7 (1.2)
6	作業終了や失敗等の報告や連絡ができる	3.7 (0.7)	4.0 (0.9)
7	他者から物を借りるときに、事前に許可を申し出ることができる	3.8 (0.6)	3.8 (1.1)
8	目上の人に丁寧な言葉づかいで会話できる	4.1 (0.9)	3.3 (1.0)
9	人と適切な距離で話ができる	3.7 (1.1)	3.2 (0.8)
10	自分の意思や考えを大勢の前で発表できる	3.4 (1.4)	3.7 (1.2)
11	聞かれたことに対して、適切な内容の返答ができる	3.6 (1.1)	3.3 (1.2)
12	自分の感情や気持ちを、相手にわかるように伝えることができる	3.3 (1.0)	3.1 (0.8)
13	攻撃的・否定的にならず、自分の考えを伝えることができる	3.3 (1.1)	2.9 (1.0)
14	会話の中で、場の状況に合わせて声の大きさを調整できる	3.3 (1.1)	3.1 (1.2)
15	話をしてもよいときといけないときの区別をつけることができる	3.8 (0.8)	3.3 (1.1)
16	列に並ぶ際、自分の番がくるまで順番を待つことができる	4.5 (0.5)	4.6 (0.5)
17	休憩時間に友達と一緒に過ごすことができる	4.2 (1.2)	4.1 (0.9)
18	他者と一緒に活動に取り組むことができる	4.5 (0.5)	4.0 (0.7)
19	困っている人がいると助けることができる	3.8 (0.9)	3.8 (1.1)
20	人の意見を最後まで聞くことができる	3.9 (1.2)	3.7 (1.1)
21	相手の気持ちを気づかった関わり方ができる(例えば、優しい口調で接することができる)	3.4 (0.9)	3.3 (0.8)
22	他者が失敗したときは、励ましたりなぐさめたりできる	3.3 (0.9)	3.4 (0.9)
23	他者の成功や活躍を、一緒になって喜ぶことができる	3.6 (0.8)	3.5 (0.8)
24	他者の立場に立った言動をとることができる	3.0 (0.9)	2.9 (0.9)
25	他者の失敗や言動をある程度受け止めることができる	3.3 (0.8)	3.1 (1.0)
26	自分と性格が合わない人とでも会話することができる	2.8 (1.3)	2.7 (1.2)
27	悩みや困っていることを親や教員、友だちに相談できる	3.3 (1.0)	3.3 (1.2)
28	仲間と目標に向かって協力することができる	3.9 (0.5)	3.7 (0.7)
29	みんなの意見をまとめる役割ができる	3.1 (1.2)	3.3 (1.4)
30	学校や社会の約束・きまり・ルールを守ることができる	3.7 (1.0)	3.8 (1.0)
31	指導者の指示を聞き、従うことができる	4.3 (0.7)	4.0 (0.7)
32	自分への指導や注意を素直に聞き、受け入れることができる	3.8 (0.9)	3.2 (1.2)
33	場と状況に応じた適切な行動(態度)をとることができる	3.6 (0.7)	3.3 (1.1)
34	スポーツやゲームなどで、自分の負けを素直に受け入れることができる	3.6 (1.1)	3.7 (1.3)
35	自分のとった行動を、客観的に振り返ることができる(いつ、どこで、何が、どうしたなど順序立てて正確に)	3.3 (1.1)	3.2 (1.3)
36	他者とのトラブルを避けるため、その場から離れるなどの行動をとることができる	2.9 (1.1)	3.0 (1.1)
37	感情的になっても気持ちをうまく切り替えることができる	2.5 (1.1)	2.6 (1.0)